

# 月刊誌「柑橘」76巻(2024年) 3月号 掲載情報

掲載情報	タイトル	執筆者
百葉箱	計画的な改植で樹の更新を	JA静岡経済連みかん園芸部 川村部長
トピックス1	そうか病の生態と防除対策について	県農林技術研究所果樹研究センター 石井様
トピックス2	果樹カメムシ類の生態と防除対策について	県農林技術研究所果樹研究センター 鈴木様
ミカン栽培基礎講座Q&A	せん定道具(ハサミ)	JA静岡経済連柑橘果樹課
ミカン作り、はじめました	JAふじ伊豆 西浦地区の生産者 矢岸様	JA静岡経済連柑橘果樹課
かんきつ情報	静岡県貯蔵ミカン品評会開催報告等	JA静岡経済連柑橘果樹課
市場情報	-	JA静岡経済連販売情報センター
ヨシダスタイル	冬期管理(せん定とカミキリムシ)	JAみっかび生産者 吉田様
休憩室	-	匿名
今月の作業	温州ミカン	県農林技術研究所果樹研究センター 大久保様
今月の作業	中晩柑類	県志太榛原農林事務所 山田様
今月の作業	落葉果樹	JAしみず集出荷センター(高塚様、望月様、三田様、橋本様)
気になる健康管理Q&A	逆流性食道炎	JA静岡厚生連
表紙、フレッシュさん	JAしみず 藤本様	JA静岡経済連柑橘果樹課

# そうか病の生態と防除対策について

静岡県農林技術研究所果樹研究センター 石井 香奈子

令和5年の県内の柑橘病害の発生は、全体に平年並か少ない状況でしたが、園地によってはそうか病の増加がみられています。

そうか病は、黒点病、かいよう病と並び、柑橘にとって重要病害の一つで、糸状菌（カビの仲間）によって引き起こされる病害です。「そうか」とはかさぶたを意味する「瘡痂」で、葉や果実にいぼ状またはかさぶた状の病斑を発生させます。症状が進むと、生育が妨げられたり、果実の収量や品質低下につながります。ここでは、そうか病の生態と防除対策について改めて確認し、栽培管理の参考にしていただきたいと思います。

## ○ 病徴と生態

そうか病の病原菌は、旧葉の病斑で越冬して、平均気温が15℃付近になると孢子が出てきます。孢子は降雨により飛散し、感染適温は24～28℃ですが、13～30℃で感染が起こります。旧葉の病斑が感染源となり、新梢に一次感染（その年の最初の感染）します。温度により、発病まで数日～20日程度潜伏感染し、春葉にいぼ型の病斑が現れます。春葉の病斑は病原菌密度が高く、降雨により葉や幼果



写真1 いぼ型病斑（左）とそうか型（かさぶた状）病斑（右）

へ二次感染が起こり、発病果実もまた感染源となります。果実は落弁後が感染しやすく、肥大とともに発病しにくくなります。葉も硬化すると発病しにくくなりますが、夏秋梢は発病しやすいため、発病を見たらせん除などを行い対応します。樹上に残った病斑は、翌年の感染源となります。病斑は、菌密度が比較的低い初期にはいぼ型となり、菌密度が高くなる後期にかさぶた状となる傾向があります（写真1）。柑橘品種により、そうか病に対する抵抗性は異なっており、温州ミカンでは被害が大きく防除対策が重要ですが、ポンカンやブンタン類、ヒュウガナツなどは比較的被害がでにくい傾向があります。

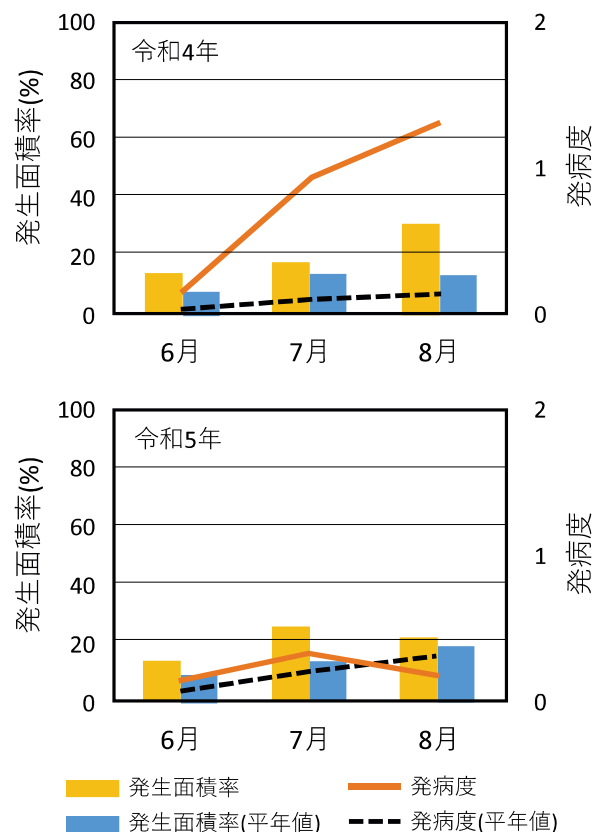


図1 そうか病の発生状況 令和4年（上）、令和5年（下）（静岡県病害虫防除所巡回調査より）

# 果樹カメムシ類の生態と 防除対策について

静岡県農林技術研究所果樹研究センター 鈴木 晴喜

令和5年は果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）が果樹園に平年より多く飛来し、一部地域では果実に被害が発生しました。これに伴い、静岡県病害虫防除所(以下、防除所と記載)からは、9月7日に「技術情報」が、9月29日には「注意報」が発表され、生産現場への注意喚起も行われました。そこで、ここでは、令和5年のカメムシ類の発生状況について振り返るとともに、カメムシ類の生態と防除のポイントについても解説します（写真1）。

## ○ カメムシ類の生態について

### （1）越冬成虫の発生

チャバネアオカメムシは雑木林などの落葉下で、ツヤアオカメムシは常緑樹の樹冠内などで成虫越冬します。越冬後のカメムシ類の成虫は、5月から活動が活発になり、開花期のカンキツに集まり、その前後にウメ、モモ、ビワなどの果実を加害します。6月下旬～7月ごろになると、ナシ、キウイフルーツ、早生温州、カキなどの加害を開始します。チャバネアオカメムシは寿命が約1年あり、前年の8月に孵化し越冬した成虫は、一般的に7月末ころまで

生きています。ツヤアオカメムシやクサギカメムシの寿命も同様です。

### （2）新成虫の発生

成虫が7月ごろにスギ、ヒノキ林で産卵し、孵化した幼虫は毬果を餌にして増殖します。8月以降になると、新成虫の発生時期となります。山林でスギ・ヒノキ毬果におけるカメムシ類の吸汁が進み餌が少なくなると、そこで育った新成虫が離脱して果樹園に飛来します（図1）。新成虫の発生が多い年は、9月以降に果樹園での被害が増加します。

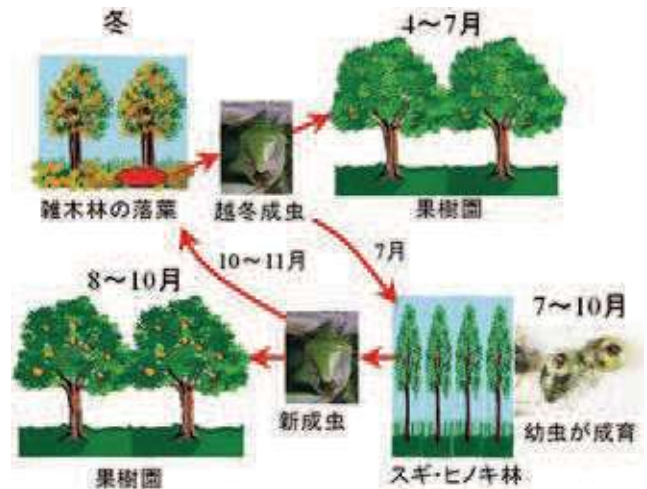


図1 チャバネアオカメムシの生活史



写真1 果樹カメムシ類（左：チャバネアオカメムシ、中：ツヤアオカメムシ、右：クサギカメムシ）